

令和3年度水道週間スローガン

「生活も ウイルス予防も 蛇口から」

上下水道局では、皆さんに安定して水を供給するために、水道施設の適切な維持管理や耐震化対策などに努めています。今回、配水池について紹介します。



▲国府第2配水池 外観

配水池の役割って？

水源から取水した水は、そのままでは飲むことができません。送水場などで消毒してから、安心して飲むことができる水道水として配水池へ送り、配水池から各家庭や学校、店舗などにお届けしています。

配水池は、日常生活に必要な量の水道水を一時的に貯める貯蔵庫のような役割を果たしています。

一般的に、水道水の使用量は、朝ご飯の準備が始まる6時ごろから増え始め、後片付けや洗濯をする8時から9時ごろがピークになります。その後、16時ごろまでは減少しますが、晩ご飯の準備や後片付け、お風呂などによって使用量が多くなる17時から21時ごろにかけて第2のピークを迎えます。このように、使われる水道水の量は、時間帯や季節によって変化するため、配水池の役割が必要となります。

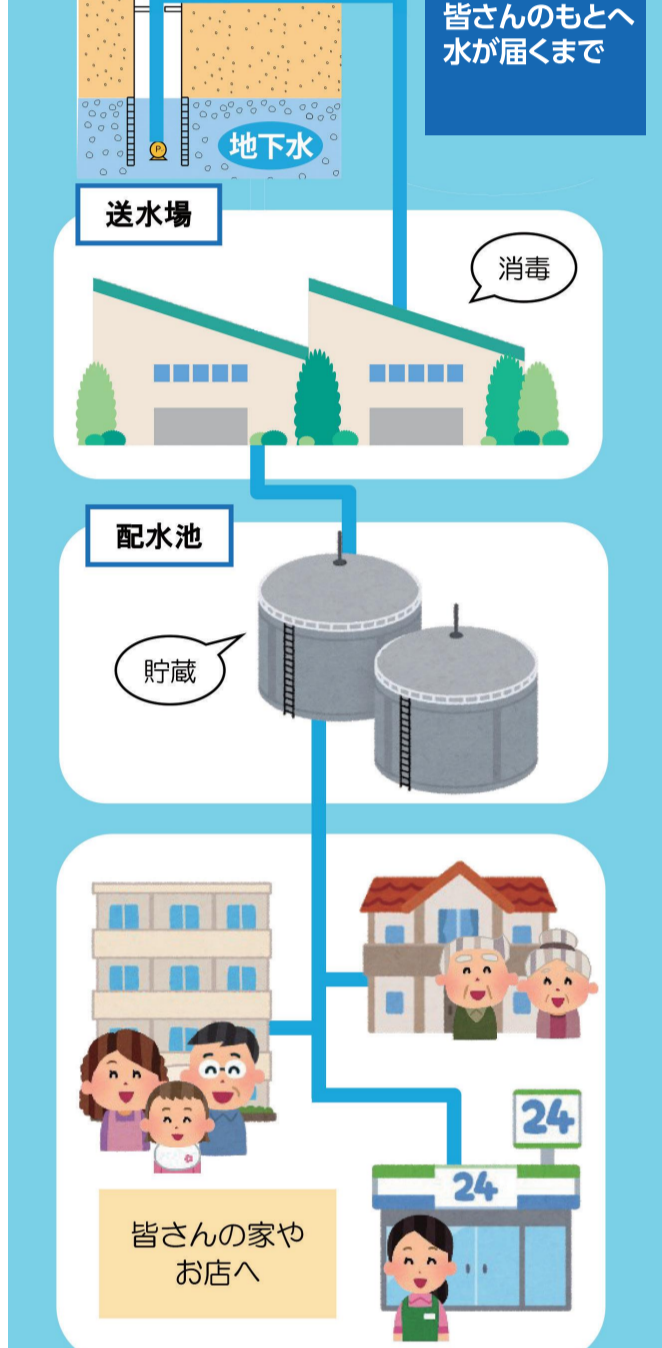


配水池のおかげで、安定した運転ができるようになっています。

配水池はこんなところに！

配水池は、周りの家や学校と比べて高い場所にあります。これは、水が高いところから低いところへ流れる自然流下の性質を利用するためです。

市内にはこのような性質を利用した施設が15カ所あり、それぞれの地域に水道水をお届けしています。



住吉配水池を紹介します

住吉配水池は竣工から50年近くが経ち、老朽化が進んだため、平成29年度から、現在の配水池の南側に新たな配水池を造る工事を行っています。

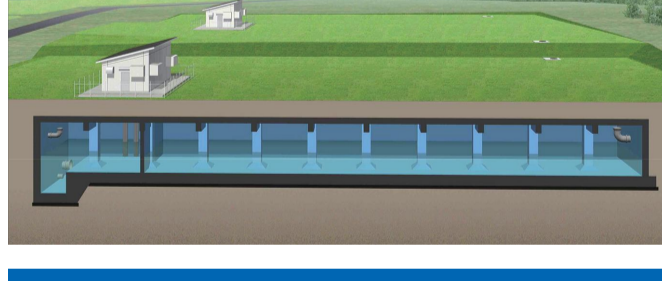
新配水池は、市内最大となる1万5,000m<sup>3</sup>の容量で、耐震性に優れた構造の水槽を有しています。



配水池の本体部分の工事が完成し、今年度から来年度の供用開始に向けて、現在、電気工事などの関連工事を進めています。



▲住吉配水池 工事風景



住吉配水池 完成予想図

配水池も災害に備えています

緊急時にも水を使用できます

配水池の水槽には、1日の生活に必要な水の約半分の量を目標に、水道水を貯めています。そのため、急な停電などで送水場の運転が止まった場合にも水道水を使うことができます。

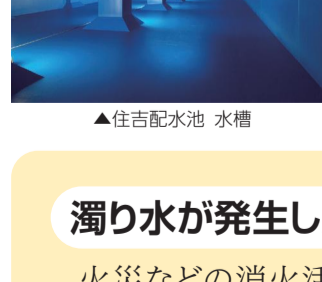
また、大規模な災害などで広い地域に断水が発生した場合に備え、市内の送水場と配水池のうち11カ所を直接取水できる「緊急取水拠点施設」として整備しています。

水道水の流出を予防しています

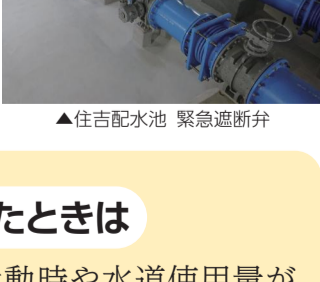
配水池の中には、地震などで壊れた水道管から水道水の流出を防ぐための「緊急遮断弁」を備える施設もあります。

水道施設の耐震化を進めています

上下水道局では、大きな地震が起きたときでも、市民の皆さんへ水道水を安定して届けることができるよう、水道施設の耐震化を計画的に進めています。



▲住吉配水池 水槽



▲住吉配水池 緊急遮断弁

濁り水が発生したときは

火災などの消火活動時や水道使用量が増える夏場など、水道管内の水の流速や流れる方向が変化したときに、管路に付着した鉄などがはがれ、濁り水が発生することがあります。水が赤く濁ったときは、洗濯機をすぐに止めてください。

また、濁った水は飲まないでください。ご自宅内で濁り水が発生した場合は、2、3分、水を流して様子を見て、それでも濁りが解消されない場合は、水道工務課(☎368-1678)へご連絡ください。